

医療福祉連携部 メンバー紹介

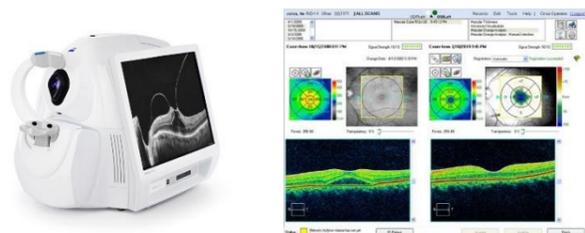
医療福祉連携部は5月からMSW5人体制となりました。これからも皆様のご指導、ご鞭撻を頂きながら業務を行ってまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



(後列左より)
那須有美愛・川本真由美・高田敏子・横山和基
(MSW) (主任 MSW) (MSW) (MSW)
(前列左より)
古澤香織・高岡里佳・内田美沙子・秋山陽香
(にしのわ看護師) (にしのわセンター長 主任 7772) (部長 MSW) (事務員)

眼科 OCTを導入しました

OCT(光干渉断層計)検査は、網膜の断層写真を撮影し、通常の診察や眼底検査ではわかりにくい網膜のむくみの程度や、緑内障の初期診断や進行具合を判定するのに有用です。検査を希望される患者さまがいらっしゃいましたら、ぜひご紹介ください。



眼科 外来担当医師表

	月	火	水	木	金	土
午前	富田			杏林大 (交代制)	渡辺	
午後	富田			杏林大 (交代制)	渡辺	

受付時間：午前 8:30~12:00
午後 12:00~15:00
※眼底検査の受付：午前は11時/午後は14時まで

グリーンレター
~Green Letter~

老いても足であるくまち 老いても口からたべるまち 西東京

Aug
2019
夏号
Vol.43

緑秀会田無病院まつり開催します!



今年の緑秀会田無病院まつりの実行委員長を務める事となりました宮田です。丸山院長発声の下で毎年盛り上がりを見せていますが、今年も令和元年11月10日(日)に西東京市民まつりと共催という形で開催します!さまざまなイベントや模擬店等で地域のみなさまとふれあい、緑秀会の事を知ってもらおうと同時に、職員同士の団結力も深めていければと思っています。成功を収める為にみんなで盛り上げていきましょう!よろしくお願いいたします。そして、地域のみなさまのご来場を心よりお待ちしております。

緑秀会田無病院まつり実行委員長 宮田 雄吉



医療法人財団 緑秀会



田無病院
〒188-0002
東京都西東京市緑町 3-6-1
TEL.042-461-2682

介護老人保健施設
エバグリーン田無
TEL.042-461-7200

田無訪問看護ステーション
TEL.042-461-7722

田無居宅介護支援事業所
TEL.042-461-7981

緑町地域包括支援センター(西東京市委託事業)
TEL.042-461-7081

西東京市在宅療養連携支援センター
にしのわ
〒202-8555
東京都西東京市中町 1-5-1
(西東京市保谷保健福祉総合センター1階)
TEL.042-464-1311(市役所代表)内線:2831
TEL.042-438-4122(直通)



グループホーム
みどりの樹
TEL.042-439-9315

小規模多機能型居宅介護
みどりの樹
〒202-0012
東京都西東京市東町 2-2-6
TEL.042-439-9311



サービス付き高齢者向け住宅
みどりの樹 清瀬
〒204-0011
東京都清瀬市清戸 709-17
TEL.042-494-6161

社会福祉法人 緑秀会



特別養護老人ホーム
グリーンロード
〒188-0004
東京都西東京市西原町 2-2-11
TEL.042-467-7736

田無病院 基本理念と基本方針

基本理念

「楽しく生き、幸せに死ねる」地域医療と介護を目指します。

老いても足であるくまち

老いても口からたべるまち 西東京

You can walk, you can eat, forever! West-Tokyo

基本方針

- ① 急性期、慢性期、在宅を繋ぐ医療を提供します。
- ② 地域医療と介護の融合を目指します。
- ③ 患者さまとその家族の立場に立った医療と介護を提供します。
- ④ 職員が健康で楽しく働ける職場を目指します。



←病院食の様子。
「ナスの煮物」

収穫した野菜を囲み、みんなで談笑。
笑顔が溢れ、自然と会話が弾みます。→



農作業リハビリテーション

田無病院 リハビリテーション科 作業療法士 河原崎 崇雄



今年度も東京大学大学院農生命科学研究科との農作業を用いたリハビリテーションを5月より開始いたしました。この活動を「農作業リハビリテーション」と呼び、早4年目を迎えますが、去年は日経新聞、朝日新聞や医療機関雑誌「病院」の取材を受けました。また新たな医療機関雑誌「保険診療」にも秋頃に掲載予定となっております。これもひとえに丸山院長はじめ、リハビリテーションスタッフ、協力して頂いている病棟スタッフや栄養科など皆さんのおかげと思っております。この場を借りて感謝申し上げます。

「農作業リハビリテーション」では、当院回復期リハビリテーション病棟に入院中の患者様と、週に1回1時間程度、西東京市にあります東京大学付属の生態調和機構で、リハビリテーションスタッフ付き添いの下、農作業を行っております。内容としては土を耕し種をまく作業から、収穫し、調理・食す、という一連の活動の全てを患者様と一緒にしております。



ナスの苗植えの様子。
自然としゃがみ込んでいます。

農作業と聞くと、何やら患者様と行うには難しそうに思えますが、参加された患者様はとても生き生きと取り組んでおり、農作物が成長していく過程を喜び、楽しみながら行っております。また鍬(くわ)などの農具を巧みに用いて、「こんな事が出来るのか」と我々が驚かされることもしばしばあります。



また農作物を育てることはもちろん、収穫した農作物を患者様と調理し食べたり、管理栄養士と共同して収穫した作物を病院食として提供もしており、今後同様に病院食として提供できたらと考えております。



ナスの収穫の様子。中腰となり
見事なバランス能力です。

過去の活動では、農作物を育てる中でバランス能力や歩行能力といった身体機能の向上がみられました。また自分たちで育てた農作物が成長し収穫できると患者様の自信に繋がり、意欲が向上するなど精神機能への効果も得られました。その他にも日付が分からなくなる見当識障害や記憶障害のある認知症の方も定期的に農作業を行う事により、日付を理解するようになるなど様々な効果がみられました。農作業を患者様同士が一緒に行うことにより、病気を抱えながらもともに協力し合ったり、励まし合う姿が農作業中はもちろん、普段の入院生活でもみられております。

今年度も上記の身体機能や精神機能、認知症への効果をさらに研究していくとともに、生活の質:QOLへの効果と、食欲への効果など食支援についても新たに取り組みを行っている最中です。

これからも引き続き患者様と一緒に取り組みますので、当施設職員ならびに本研究関係者にはご協力をお願いするかもしれませんが、どうぞよろしくお願い致します。

Report 介護職員等による痰吸引・経管栄養の实地研修

介護サービスの基盤強化を目的として、平成24年4月より、一定の研修を受けた介護職員が一定の条件の下に痰の吸引を実施することが認められました。

一定の研修とは、基本研修(講義・演習)と実地研修(実習)であり、これに合格すれば実際の医療的ケアを行えるようになります。

そこで田無病院も鈴木看護部長が実習生を受け入れようと提案されました。今年2月に医療的ケア教員講習会に鈴木看護部長と南病棟宗像主任、中3病棟田中師長の3人が参加し、教員資格



を取り、4月から実地研修が始まりました。口腔内吸引10回、鼻腔内吸引20回、胃瘻からの経管栄養20回実施し、合格するには70%成功とハードルが高いので大変です。こちら初めての経験で戸惑いましたが、実習生の緊張感とやる気が伝わるので、気持ちを和らげようと楽しく行うようにしています。南病棟の南雲看護師も教員資格を取り、中3病棟の介護職員も実地研修に行くことが決まっております。これからますます良い方向に向かっていくと思います。

7月13日 第26回田無病院市民講座開催のご報告



第26回みんなに役立つ市民講座は「ケイシュク(手足のつっぱり)の治療(ボツリヌス治療)とリハビリテーション」をテーマにリハビリテーション科鴨下医師にお話しいただきました。38名と多くの方にご参加いただき、関心の高さを感じました。

ケイシュクが起こるメカニズムやボツリヌス治療のメリット・デメリットを分かりやすく説明して頂きました。

また、昨年同様、「脱水予防の啓蒙活動」としてリハビリ病棟の患者様が手作りしたうちわを受付でお配りし、沢山の方に手に取って頂きました。

